

2023年度  
名古屋大学大学院環境学研究科  
入学（進学）試験受験案内  
（第Ⅱ期募集）

本ファイルは、「2023年度名古屋大学大学院環境学研究科博士前期課程及び博士後期課程学生募集要項（第Ⅱ期募集）」の説明内容を補うものです。

受験に際しての各専攻の注意事項等が記載されています。

受験を希望する者は、必要な部分を熟読のうえ、出願の手続き等を行ってください。

名古屋大学大学院  
環境学研究科

## 2023年度名古屋大学大学院環境学研究科

### 入学（進学）試験受験案内（第Ⅱ期募集）

#### 目 次

●受験に際しての注意事項等

地球環境科学専攻

都市環境学専攻

社会環境学専攻

●統合環境学特別コースの案内

●知の共創プログラム特別コースの案内

※試験会場等の建物の場所については、

<https://www.nagoya-u.ac.jp/access-map/index.html> をご参照ください。

## 受験に際しての注意事項等

### 【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応】

- ・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）における名古屋大学の活動指針に応じて、試験実施方法や日程、試験場等を変更する場合があります。特に、対面で実施予定の試験を受験する者は、研究科ホームページを定期的に確認すること。
- ・対面で実施する試験を受験する者は、マスクを必ず着用の上で試験に臨むこと。

# 地球環境科学専攻

## 1. 口述試験について

### 1.1 博士前期課程

**【地球惑星科学系】** 地球惑星科学系（地球環境システム学，地質・地球生物学，地球化学，地球惑星物理学，生態学，地球惑星ダイナミクス，地球史学）の志願者

#### 一般選抜，留学生特別選抜及び社会人特別選抜入試

口述試験の内容：卒業研究の内容や志望分野での研究計画の概要などについて5分間の発表を行い，その発表内容等について10分間程度の口頭試問を行う。（※留学生特別選抜では，口頭試問の一部もしくは全部を英語で行う）。5分間発表のためのパワーポイントファイルやpdfファイルをUSBメモリに入れて持参すること。

口述試験は，名古屋大学環境総合館にて対面で行う。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染状況によっては，オンライン方式で試験を行う場合がある。この場合，環境学研究科のホームページ，各受験者宛てのE-mail等によって連絡する。

試験日時 2023年2月14日（火）9：00より

集合場所：環境総合館 3階 演習室3

集合時刻：試験開始20分前

**【大気水圏科学系】** 大気水圏科学系（地球環境変動論，気候科学，物質循環科学，地球水循環科学）の志願者

#### 一般選抜，留学生特別選抜及び社会人特別選抜入試

口述試験の内容：卒業研究の内容や志望分野での研究計画の概要などについて5分間の発表を課す。その後，発表内容等について口頭試問を行う。なお，発表ではWeb会議システムを用いて，ファイル共有をすること。（※留学生特別選抜では英語で口頭試問を行う）

オンライン試験 日時 2023年2月14日（火）9：15より

\* 口述試験は遅刻を認めない。

## 1.2 博士後期課程

### 一般選抜，留学生特別選抜及び社会人特別選抜入試

**【地球惑星科学系】** 地球惑星科学系（地球環境システム学，地質・地球生物学，地球化学，地球惑星物理学，生態学，地球惑星ダイナミクス，地球史学）の志願者

口述試験の内容：名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻地球惑星科学系からの進学志願者には，修士学位論文などの研究内容及び進学後の研究計画について約15分の口頭試問を行う。

上記以外からの志願者には，修士学位論文などの研究内容と入学後の研究計画について15分の発表を課した後，専門に関する能力と語学力（英語）について，約15分の口頭試問を行う。発表のためのパワーポイントファイルやpdfファイルをUSBメモリに入れて持参すること。

口述試験は，名古屋大学環境総合館にて対面で行う。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染状況によっては，オンライン方式で試験を行う場合がある。この場合，環境学研究科のホームページ，各受験者宛てのE-mail等によって連絡する。

試験日時 2023年2月14日（火）13：00より

集合場所：環境総合館 3階 演習室3

集合時刻：試験開始20分前

**【大気水圏科学系】** 大気水圏科学系（地球環境変動論，気候科学，物質循環科学，地球水循環科学）の志願者

口述試験の内容：名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻大気水圏科学系からの進学志願者には，研究計画を中心とした内容についての10分の発表を課す。上記以外からの志願者には，修士論文等（20分以内）と研究計画の内容（10分以内）について合わせて30分以内の発表を課す。その後，発表内容について，質疑応答を行う。なお，発表ではWeb会議システムを用いて，ファイル共有をすること。

オンライン試験 日時 2023年2月14日（火）13：00より

\* 口述試験は遅刻を認めない。

## 2. 英語外部検定試験を利用した試験科目「英語」の実施要領について（博士前期課程のみ）

### 2.1 試験の方法

「英語」試験は，出願時に各受験生が提出するTOEFL/TOEIC/IELTSスコアシートの結果を利用する。今回の試験で有効とするTOEFL/TOEIC/IELTSスコアシートの種別・有効期間等については，募集要項「6. 提出書類」を参照すること。なお，TOEFL iBTについては自宅で受験するHome Edition（旧称Special Home Edition）によるスコアシート原本は受理しないので注意すること。

### 2.2 スコアシートの提出方法

スコアシートの提出については，募集要項「6. 提出書類」を参照すること。

## 2.3 換算方法

(a)下記の換算表は、今回の試験における IELTS, TOEFL (iBT, ITP), TOEIC の間の換算の目安を示している。

(b)下記の換算表は、地球環境科学専攻の今回の試験のみに適用されるものとする。

参考換算表 (2023年2月実施用)

| IELTS | TOEFL iBT | TOEFL-ITP* | TOEIC   |
|-------|-----------|------------|---------|
| 7.5～  | 109～      | 630～       | 960～    |
| 7     | 100～108   | 600～630    | 870～960 |
| 6.5   | 90～99     | 575～600    | 800～870 |
| 6     | 80～89     | 550～575    | 730～800 |
| 5.5   | 69～79     | 520～550    | 650～730 |
| 5     | 61～68     | 500～520    | 580～650 |
| 4.5   | 52～60     | 470～500    | 500～580 |
| 4     | 45～51     | 450～470    | 440～500 |
| 3.5   | 33～44     | 405～450    | 310～440 |
| 3     | 29～32     | 390～405    | 270～310 |

\*TOEFL-ITP については、2021年12月に名古屋大学において実施したTOEFL-ITP 試験のスコアのみ受け付ける。

## 2.4 TOEFL/TOEIC/IELTS に関する詳細

下記のホームページを参照するか、または試験の実施機関に問い合わせること。

TOEFL: <https://www.toefl-ibt.jp/>

TOEIC: <http://www.iibc-global.org/toeic.html>

IELTS: <http://www.eiken.or.jp/ielts/index.html>

## 3. 出願に際して

### 3.1 志望分野

博士前期課程の出願者は、志望する教員もしくは分野を第2志望まで選ぶことができる。志願者は受験案内やホームページなどを参考にし、教員の研究内容等を熟慮した上で志望先を決めること。なお、2022年8月実施の第1期募集において、指導可能な人数の上限に達した教員もいるため、地球環境科学専攻を志望する者は必ず、事前に希望指導教員へ連絡を取る。また、教育上の配慮から、教員あたりの合格者数が制限される場合がある。指導教員の決定にあたっては、系・講座ごとに総合的に判断するため、試験の得点順にならない場合がある。第2志望を記入した場合には、第1志望に不合格の場合でも第2志望で合格できることがあるので、第2志望も入力することを推奨する。合格してかつ第1志望にならなかった場合は、その旨を合格通知とともに通知する。

### 3.2 2023年度地球環境科学専攻指導教員および教育研究内容の一覧

○別ファイルを参照のこと。

# 都市環境学専攻

## 1. 都市環境学専攻の履修コース、問題選択および指導教員について

都市環境学専攻では、持続発展学系及び建築学系の教育研究内容にもとづき、持続発展学コース、建築学コースの2つの履修コースを設けている。履修コースごとに取得できる学位の分野が異なり、それぞれ修了要件が定められている。

学力検査は履修コースごとに実施し、日程、内容ともに異なる。また、併願はできない。したがって、履修コースと希望する指導教員をあらかじめ選択の上、受験する必要があるので注意すること。

なお、今回の第Ⅱ期入学試験では、建築学コースの博士前期課程の募集は行わないので留意すること。

各履修コースの教員名および教育研究内容を別ファイル「名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻指導教員および教育研究内容の一覧」に示すので、受験に際しての参考にすること。なお、両コースにまたがる教育研究分野を担当している一部教員は、両コースに重複して記載している。

名古屋大学国際環境人材育成プログラム（別記2参照）の選抜は、持続発展学コースの入試に則って実施する。同プログラムへの参加を希望する者は、持続発展学コースを受験すること。

## 2. 博士前期課程の案内

### 2.1 持続発展学コース

#### (1) 試験のスケジュールと試験場

一般選抜

| 日付           | 時間          | 試験科目（試験方法） | 試験場         |
|--------------|-------------|------------|-------------|
| 2023年2月8日（水） | 9：30－11：30  | 専門科目（筆記試験） | 環境総合館3階講義室1 |
|              | 13：00－14：00 | 小論文（筆記試験）  | 同上          |
|              | 16：30－      | 面接         | 同上（受験生控室）   |

留学生特別選抜

| 日付           | 時間                   | 試験科目（試験方法）        | 試験場 |
|--------------|----------------------|-------------------|-----|
| 2023年2月7日（火） | 9：00－18：00<br>（個別実施） | 専門科目<br>（オンライン口述） |     |

社会人特別選抜

| 日付                       | 時間                   | 試験科目（試験方法）        | 試験場 |
|--------------------------|----------------------|-------------------|-----|
| 2023年2月1日（水）<br>～2月7日（火） | 9：00－18：00<br>（個別実施） | 口述試験<br>（オンライン口述） |     |

#### (2) 受験に際しての注意事項

##### 【出題範囲及び使用言語等について】

- ・出題範囲等については、別記1「名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻（持続発展学コース）2023年度博士前期課程入学試験（第Ⅱ期）学力検査出題範囲」を参照すること。
- ・一般選抜の専門科目及び小論文は、日英併記で出題するので日本語又は英語で解答すること。
- ・留学生特別選抜（オンライン）の専門科目は、英日併記で投影出題するので英語又は日本語で解答すること。

### 【対面で実施する試験について】

- ・一般選抜を受験する者は、筆記試験会場に試験開始の30分前までに入室すること。遅刻の場合、筆記試験（専門科目）は試験開始60分後、筆記試験（小論文）は試験開始30分後まで入室を認める。終了時刻前に到着し、遅刻が本人の責めに帰さない場合、試験終了時刻の繰り下げを認めることがある。全ての筆記試験で試験終了時刻前の退室（早退）は認められない。面接においては遅刻を認めない。
- ・筆記試験に際しては、黒鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・鉛筆削り・時計以外を使用してはならない。辞書等（電卓あるいは辞書機能付き携帯電話・時計等も含む）は使用できない。電卓に関しては、試験に必要な場合のみ大学側で準備する。

### 【オンラインで実施する試験について】

- ・留学生特別選抜及び社会人特別選抜のオンライン試験を受験する者は、必ず出願前に希望指導教員と連絡をとり、受験の内諾を得た上で出願すること。
- ・オンライン試験を受験する者の試験日時、試験方法等の詳細については、入試担当者もしくは希望指導教員より連絡する。
- ・オンライン試験を受験する者は、指示されたオンライン試験会場の待機室に試験開始の10分前までに入室すること。遅刻の場合は、試験終了時刻まで入室を認める。遅刻あるいは試験中の通信不良等による試験終了時刻の繰り下げ等を行わない（ただし、本人の責めに帰しないと認められる場合、考慮することがある）。

## (3) 英語外部検定試験（TOEFL/TOEIC/IELTS）を利用した試験科目「英語」の実施要領について

### 1. 試験の方法と注意事項

- (a) 試験科目「英語」は、TOEFL/TOEIC/IELTS スコアを次項「2. 換算方法」に従って換算することにより採点する。
- (b) 本試験で有効とする外部検定試験の種別、ならびに受験年月日については、募集要項「6.提出書類」を参照すること。
- (c) スコアシート原本の提出方法については、募集要項の「6. 提出書類」及び「7.2（選抜方法等）都市環境学専攻」を参照すること。
- (d) TOEFL/TOEIC/IELTS に関する詳細については下記ホームページを参照するか、各試験の実施機関に問い合わせること。

TOEFL: <https://www.toefl-ibt.jp/>

TOEIC: <https://www.iibc-global.org/toeic.html>

IELTS: <https://www.eiken.or.jp/ielts/>

<https://berkeleyhouse.co.jp/ielstestcentre/>

<https://jsaf-ieltsjapan.com/>

### 2. 換算方法

- (a) TOEFL iBT (Home Edition を含む)からの換算は、上限300点、下限0点として以下の式を用いる。  
$$\text{TOEFL iBTスコア} \times 4.38 - 125 = \text{換算点}$$
- (b) TOEIC からの換算は、上限300点、下限0点として以下の式を用いる。  
$$\text{TOEIC スコア} \times 0.522 - 156 = \text{換算点}$$
- (c) IELTS からの換算は、一般的に用いられる換算表に基づいてTOEFL iBTに換算（幅で示されている換算点数の中間値を用いる）した後、(a)の方法を適用する。
- (d) 以上の換算方法は、今回の試験においてのみ適用されるものとする。



(4) 面接（一般選抜）

持続発展学コースの全教員による面接である。詳細については、試験当日配布する資料を確認の上、指示に従うこと。

(5) 書類審査（留学生特別選抜及び社会人特別選抜）

募集要項「6.提出書類」を確認の上、これに従うこと。特に、「エッセイ」，「受賞歴，学会発表・発表論文リスト，業績書等」の提出が必要である点に注意されたい。

(6) 入学定員

都市環境学専攻の募集人員は「学生募集要項」の記載のとおりであるが、持続発展学コースには、第Ⅰ期入学試験による入学見込み者を含め、約33名まで入学可能である。

(7) 過去の入試問題の公表

過去の入試問題は、下記研究科ホームページより入手可能である。

[https://www.env.nagoya-u.ac.jp/admission/design\\_exam.html](https://www.env.nagoya-u.ac.jp/admission/design_exam.html)

持続発展学コースの入試情報については下記も参照されたい。

<https://sd.urban.env.nagoya-u.ac.jp/main/ja/exam/>（持続発展学コース入学試験案内）

## 2.2 建築学コース

今回の第Ⅱ期入学試験では、建築学コースの博士前期課程の募集は行わない。

### 3. 博士後期課程の案内

#### 3.1 持続発展学コース

##### (1) 試験のスケジュールと試験場

以下に示す日程で実施する。

##### <一般選抜>

| 日付           | 時間          | 試験科目（試験方法） | 試験場         |
|--------------|-------------|------------|-------------|
| 2023年2月8日（水） | 9：30－11：30  | 専門科目（筆記試験） | 環境総合館3階講義室1 |
|              | 13：00－16：00 | 口述試験（対面口述） | 試験当日指示する    |
|              | 16：30－      | 面接         | 試験当日指示する    |

##### <留学生特別選抜>

| 日付                       | 時間                   | 試験科目（試験方法）        | 試験場 |
|--------------------------|----------------------|-------------------|-----|
| 2023年2月1日（水）<br>～2月7日（火） | 9：00－18：00<br>（個別実施） | 専門科目<br>（オンライン口述） |     |

##### <社会人特別選抜>

| 日付                       | 時間                   | 試験科目（試験方法）        | 試験場 |
|--------------------------|----------------------|-------------------|-----|
| 2023年2月1日（水）<br>～2月7日（火） | 9：00－18：00<br>（個別実施） | 口述試験<br>（オンライン口述） |     |

##### (2) 受験に際しての注意事項

###### 【出願前の内諾手続き及び試験分野の設定等について】

- ・受験者は、別ファイル「指導教員および教育研究内容の一覧」を参照の上、持続発展学コースの教員から希望指導教員を1名選び、その氏名を受験票および写真票の「指導教員名」欄に記入すること。なお、博士後期課程を受験する者は、必ず出願前に希望指導教員に連絡をとり、受験の内諾を得た上で出願すること。
- ・出願書類及び希望指導教員との連絡状況にもとづき、一般選抜及び留学生特別選抜における専門科目の試験分野（3分野）を設定する。社会人特別選抜における口述試験の試験内容については、希望指導教員より個別に通知する。

###### 【対面で実施する試験について】

- ・一般選抜を受験する者は、筆記試験会場に試験開始の30分前までに入室すること。遅刻の場合、筆記試験（専門科目）は試験開始60分後まで入室を認める。ただし、遅刻が本人の責めに帰さない場合は、入室や試験終了時刻の繰り下げを認めることがある。なお、試験終了時刻前の退室（早退）は認めない。口述試験及び面接については遅刻を認めない。
- ・一般選抜の筆記試験に際しては、黒鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・鉛筆削り・時計以外を使用してはならない。辞書等（電卓あるいは辞書機能付き携帯電話・時計等も含む）は使用できない。電卓に関しては、試験に必要な場合のみ大学側で準備する。

###### 【オンラインで実施する試験について】

- ・オンライン試験を受験する者の試験日時、試験方法等の詳細については、入試担当者もしくは希望指導教員より連絡する。
- ・オンライン試験を受験する者は、指示されたオンライン試験会場の待機室に試験開始の10分前までに入室すること。遅刻の場合は、試験終了時刻まで入室を認める。遅刻あるいは試験中の通信不良等による試験終了時刻の繰り下げ等を行わない（ただし、本人の責めに帰さない認められる場合、考慮するこ

とがある)

(3) 英語外部検定試験 (TOEFL/TOEIC/IELTS) を利用した試験科目「英語」の実施要領について

1. 試験の方法と注意事項

- (a) 試験科目「英語」は、TOEFL/TOEIC/IELTS スコアを次項「2. 換算方法」に従って換算することにより採点する。
- (b) 本試験で有効とする外部検定試験の種別、ならびに受験年月日については、募集要項「6. 提出書類」を参照すること。
- (c) スコアシート原本の提出方法については、募集要項の「6. 提出書類」及び「7.2 (選抜方法等) 都市環境学専攻」を参照すること。
- (d) TOEFL/TOEIC/IELTS に関する詳細については下記ホームページを参照するか、各試験の実施機関に問い合わせること。

TOEFL: <https://www.toefl-ibt.jp/>

TOEIC: <https://www.iibc-global.org/toeic.html>

IELTS: <https://www.eiken.or.jp/ielts/>

<https://berkeleyhouse.co.jp/ielstestcentre/>

<https://jsaf-ieltsjapan.com/>

2. 換算方法

- (a) TOEFL iBT (Home Edition を含む)からの換算は、上限300点、下限0点として以下の式を用いる。  
$$\text{TOEFL iBTスコア} \times 4.38 - 125 = \text{換算点}$$
- (b) TOEIC からの換算は、上限300点、下限0点として以下の式を用いる。  
$$\text{TOEIC スコア} \times 0.522 - 156 = \text{換算点}$$
- (c) IELTS からの換算は、一般的に用いられる換算表に基づいてTOEFL iBTに換算 (幅で示されている換算点数の中間値を用いる) した後、(a)の方法を適用する。
- (d) 以上の換算方法は、今回の試験においてのみ適用されるものとする。

(4) 口述試験・面接 (一般選抜)

口述試験・面接の控室、開始時間等の詳細については、試験当日配布する資料を確認の上、指示に従うこと。なお、面接は持続発展学コースの全教員による面接である。

(5) 書類審査 (留学生特別選抜及び社会人特別選抜)

募集要項「6.提出書類」を確認の上、これに従うこと。特に、「研究計画書」、「受賞歴、学会発表・発表論文リスト、業績書等」の提出が必要である点に注意されたい。

(6) 入学定員

都市環境学専攻の募集人員は「学生募集要項」の記載のとおりであるが、持続発展学コースには約11名まで入学が可能である。

### 3.2 建築学コース

(1) 試験のスケジュールと試験場

募集要項に記載のとおり

(2) 試験内容について

志願者は希望指導教員にあらかじめ連絡を取り、受験科目について指示を受けること。

1) 筆記試験（英語）〔一般選抜，留学生特別選抜，社会人特別選抜〕

- (a) 試験科目「英語」は、TOEFL/TOEIC/IELTS スコアを下記の「換算方法」に従って換算することにより採点する。
- (b) 本試験で有効とする外部検定試験の種別，ならびに受験年月日については，募集要項「6.提出書類」を参照すること。
- (c) スコアシート原本の提出方法については，募集要項の「6.提出書類」及び「7.2（選抜方法等）都市環境学専攻」を参照すること。
- (d) 入試までに開催されるTOEFL/TOEIC/IELTS の試験は，回数が限られている。これから受験する者は試験開催日程に注意すること。
- (e) TOEFL/TOEIC/IELTS に関する詳細については下記ホームページを参照するか，各試験の実施機関に問い合わせること。

TOEFL: <https://www.toefl-ibt.jp/>

TOEIC: <http://www.iibc-global.org/toeic.html>

IELTS: <http://www.eiken.or.jp/ielts/index.html>

<https://berkeleyhouse.co.jp/ielstestcentre/>

<https://jsaf-ieltsjapan.com/>

換算方法

- (a) TOEFL（PBT）からの換算は，657点以上を満点に相当する200点，350点以下を0点として，TOEFL（PBT）スコアが657～350点の場合，以下の式を用いる。

$$\frac{\text{TOEFL (PBT) スコア} - 350}{(657 - 350)} \times 200 = \text{換算点}$$

- (b) TOEFL iBT(Home Edition を含む)からの換算は，一般的に用いられる換算表に基づいてTOEFL（PBT）に換算した後，(a)の方法を適用する。
- (c) TOEIC からの換算は，以下の式を使用してTOEFL（PBT）に換算した後，(a)の方法を適用する。  
TOEIC スコア  $\times$  0.348 + 296 = TOEFL（PBT）スコア
- (d) IELTS からの換算は，一般的に用いられる換算表に基づいてTOEFL（PBT）に換算（幅で示されている換算点数の中間値を用いる）した後，(a)の方法を適用する。
- (e) 以上の換算方法は，今回の試験のみ適用されるものとする。

2) 筆記試験（専門科目）〔一般選抜〕

志望する専門分野の筆記試験である。

3) 口述試験〔一般選抜，留学生特別選抜，社会人特別選抜〕

希望する指導教員を中心とする建築学コースの教員により，これまでの研究内容および後期課程での研究計画に関連する事項について試問するとともに，専門に関する能力について口述による試験を行う。試験は，対面もしくはオンラインで行う。

4) 面接〔一般選抜，留学生特別選抜，社会人特別選抜〕

建築学コースの全教員により，志望の動機，これまでの研究内容および入学後の学習等に関連する事項を試問する。説明内容をまとめた資料の用意や説明方法などについては，指導希望指導教員と事前に相談しておくこと。

(3) 入学定員

都市環境学専攻の募集人員は「学生募集要項」の記載のとおりであるが，建築学コースには約10名まで

入学が可能である。

#### 4. 2023年度都市環境学専攻指導教員および教育研究内容の一覧

○別ファイルを参照のこと。

名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻（持続発展学コース）

2023年度 博士前期課程入学試験（第Ⅱ期）学力検査出題範囲

| 科目名  |   | 主な出題範囲   |
|------|---|--|
| 分野   | 解答形式  |  |
| 英語   | 【全ての選抜】<br>TOEFL, TOEIC または IELTS のスコアを提出する。  | 提出されたスコアにより成績を判定する。  |
| 専門科目 | 環境工学・環境政策<br>【一般選抜】<br>環境工学・環境政策(3問), 環境化学(2問), 構造工学(2問), 計画学(2問)の4分野から出題する9問の中から, 3問を選択して解答する。(1分野のみから選択してもよい) | 環境と経済, 交通と環境, 環境リスク, 費用便益分析, 環境管理システムなどに関する基礎的知識を問う問題, 国土環境保全, 資源・エネルギーの利用と再生, 大気汚染・水質汚濁の防止, 環境影響評価などに関する技術の実際と応用に関する知識を問う問題 |
|      | 環境化学<br>【留学生特別選抜】<br>受験生は3問分の「分野」を選択する。環境工学・政策分野は最大3問分, その他の分野は最大2問分選択可能である。                                    | 資源・エネルギーの化学, 物質の製造・廃棄・循環利用(グリーンケミストリー), 大気・水・土壌の物質汚染, 地球温暖化, 酸性雨・海洋酸性化など, 環境に関わる物質化学の知識を問う。                                  |
|      | 構造工学  | 材料の応力とひずみ, 骨組構造解析, 耐風・耐震設計, 鋼構造, コンクリート構造, 骨組設計など。   |
|      | 計画学   | 土木計画における統計的・数理計画的手法, 費用便益分析, 地域計画, 都市計画, 土地利用計画, 交通工学などに関する問題。   |
| 小論文  | 【一般選抜】<br>1問が出題される。   | 環境問題, 社会・経済などに関する小論文で, 主としてその論理性を問う。   |

※ 持続発展学コースのⅡ期入試は, 文系を含めた幅広い分野の出身者が受験できるように配慮しています。

※ 留学生特別選抜, 社会人特別選抜は, 上記のほかに「書類審査」があります。

2023 年度・環境学研究科都市環境学専攻持続発展学コース博士前期課程・博士後期課程  
「名古屋大学国際環境人材育成プログラム」の案内

名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻では、工学研究科土木工学専攻と協力して、「名古屋大学国際環境人材育成プログラム」を実施している。本プログラムは、アジア・アフリカ諸国が直面する様々な環境問題の解決を担う次世代の環境リーダーの育成を目的とするものである。

下記の説明および資料を参照の上、参加を希望する場合には、必要な手続きをとること。

### 対象学生

博士前期課程・博士後期課程に入学する留学生および日本人学生

### プログラムの概要

※ 詳細については、ホームページ (<https://www.civil.nagoya-u.ac.jp/nugelp/index.html>) を参照のこと。

- ・ 地球環境問題や持続可能な開発問題を対象に、事象の理解、対策技術の理解・修得、制度設計・政策運営の能力獲得のための教育を実施する。講義等は英語で行う。
- ・ グローバル研究インターンシップを必修科目とする。旅費等の援助については指導教員と相談すること。
- ・ 留学生と日本人が相互に啓発しあいながら共に学び、国際的コミュニケーション能力を向上させる。
- ・ 博士後期課程の学生は「統合環境学特別コース」に準じたカリキュラムで専門的且つグローバルな視野を培う。
- ・ プログラム所定の学業を修めた学生には、修士学位或いは博士学位に加えて、プログラム修了認定証を授与する。

### 参加希望から選考、参加までの流れ

- ① 入学志願票のプログラム参加希望に関する欄に、参加希望である旨記入すること。
- ② 入学時に、プログラム専用のガイダンスを実施する。
- ③ 入学者のうち、参加希望者を対象に面接を実施する。入試成績、英語能力、意欲などを総合的に評価して、プログラム学生を選考する。
- ④ プログラムから選考結果を通知する。

※ 選考案内を含むプログラムからの連絡は、基本的にメールで行う。参加希望の受験者は必ず、入学志願票に確実に受信できるメールアドレスを記載すること。特に入学手続前後は、定期的にメールを確認すること。

### 注意事項

- ・ プログラムの博士前期課程に所属する学生は、プログラム指定科目（グローバル研究インターンシップ 2 単位を含む計 10 単位）を履修することが求められる（学位取得に必要な単位としてカウント可能）。
- ・ プログラムの博士後期課程に所属する学生は、プログラム指定の後期課程の授業科目から、基礎環境学講究 1 と臨床環境学研修 1 を含む 10 単位以上を履修することが求められる。
- ・ プログラム学生は通常の学生と同様に、都市環境学専攻持続発展学コースの教員の中から、自分の専門や興味にあわせて指導教員を自由に希望することができ、それぞれの研究室に所属して専門分野について学びながら、プログラム履修を進める。プログラム参加については、**事前に希望指導教員に相談すること。**
- ・ プログラムが提供する科目は一部を除いて開放されている。したがって、プログラム参加学生以外の一般学生も受講可能である。

問い合わせ先：名古屋大学国際環境人材育成プログラム（NUGELP）

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 D 2-1(150) 名古屋大学環境総合館 223 号室

E-mail: envleaders@urban.env.nagoya-u.ac.jp

# 社会環境学専攻

## 1. 社会環境学専攻の分野、出願に当たっての注意

1.1 社会環境学専攻は、それぞれカリキュラムの異なる5講座によって構成されています。学生は、それらの各講座のいずれかに所属し、指導教員の指導の下で修士論文または博士論文を作成することになります。所定単位を履修し、修士論文ないし博士論文の試験に合格すると、修士または博士の学位を取得できます。社会環境学専攻で取得できる修士ないし博士の種類は環境学・経済学・法学・社会学・地理学のいずれかで、それぞれ単位取得の要件が異なります。各講座の説明については、社会環境学専攻のホームページをご覧ください。

(<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/dept/society.html>)

また、過去の入試問題は、環境学研究科のホームページの「入試」をご参照ください。

(<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/admission/index.html>)

環境政策論、経済環境論、環境法政論、社会学、地理学の5つの分野で学生を募集します。各分野は各講座にそれぞれ対応します。社会環境学専攻の受験にあたっては、それらから志望する分野（あるいは指導を希望する教員）を1つ選ばなければいけません。第2志望分野の募集は行っていません。

入学後、指導教員とよく相談して学修・研究計画を立てる必要がありますので、どの分野を志望するか、どの教員の指導を希望するかということについて、受験前によく検討しておくことが必要です。

なお各教員の教育研究内容を別ファイルに掲げておきますので、検討の際に参考にしてください。とくに指導を希望する教員が決まっている場合、あるいは教育研究内容について質問がある場合は、受験前に、各教員まで遠慮なく連絡してください。

別ファイルで\*印が付いている教員を指導教員として希望する場合は、志願理由書の「指導教員名」欄に教員名だけでなく志望分野名も明記するようにしてください。

## 1.2 2023年度社会環境学専攻指導教員および教育研究内容の一覧

○別ファイルを参照のこと。

## 2. 入学試験について

社会環境学専攻の入学試験は、大きく、筆記試験と口述試験とから構成され、筆記試験は各分野の専門内容に関する問題を出題します。自己推薦入試および後期課程の社会人特別選抜については、口述試験のみが課されます。また、前期課程の一般選抜、留学生特別選抜では、英語試験を行います。英語試験は、提出された英語外部検定試験（TOEFL/TOEIC/IELTS）のスコアシートをもとに採点します。

筆記試験では、それぞれ入学志望分野の出題に解答しなければいけません。試験時間、各分野の出題範囲、その他の注意事項などについては、学生募集要項をご覧ください。なお口述試験は、基本的に分野ごとに行われます。

筆記試験などの試験会場については、後日、E-Mail等で受験生本人に直接通知されます。なお、筆記試験と口述試験は名古屋大学内の試験会場を受験する対面式で行う予定ですが、COVID-19の感染状況によっては、オンライン方式を採用する可能性もあります。必ず、環境学研究科のホームページで入試情報を確認してください。

指導を希望する教員が決まっている場合、あるいは研究したい内容や教員の教育研究内容について質問がある場合は、受験前に各教員に連絡するようにしてください。特に、留学生の場合は、必ず指導希望教員に事前に連絡をしてください。

## 3. 前期課程の入学試験（一般選抜、留学生特別選抜）における英語外部検定試験（TOEFL/TOEIC/IELTS）の



## 利用について

### 1. 試験の方法と注意事項

- (a) TOEFL/TOEIC/IELTS のスコアシートは、原本を提出するものとします。原本を提出しない場合、試験科目「英語」の点数が零点になりますので十分に留意してください。なお、TOEFL iBTは、Home Editionも含めることとする。
- (b) 試験科目「英語」は、TOEFL/TOEIC/IELTS スコアを次項「2. 換算方法」に従って換算することにより採点します。
- (c) 本試験で有効とする外部検定試験の種別、スコアシート原本、受験年月日、及び提出方法については、募集要項「6. 提出書類」及び「7.3 (選抜方法等) 社会環境学専攻」を参照してください。
- (d) 入試までに開催されるTOEFL/TOEIC/IELTS の試験は、回数が限られています。これから受験する者は試験開催日程に注意してください。
- (e) TOEFL/TOEIC/IELTS に関する詳細については下記ホームページを参照するか、各試験の実施機関に問い合わせてください。

TOEFL: <https://www.toefl-ibt.jp/>

TOEIC: <https://www.iibc-global.org/toeic.html>

IELTS: <https://www.eiken.or.jp/ielts/>

<https://berkeleyhouse.co.jp/ielstestcentre/>

<https://jsaf-ieltsjapan.com/>

### 2. 換算方法

- (a) TOEFL iBT(Home Edition を含む)からの換算は、Educational Testing Serviceが公表している Total Score Comparisonsに基づいてTOEFL (PBT) に換算（幅で示されている換算点数の中間値を用いる）した後、(d)の方法を適用します。

[https://www.kuleuven.be/english/admissions/lang/TOEFL\\_iBT\\_Score\\_Comparison\\_Tables.pdf](https://www.kuleuven.be/english/admissions/lang/TOEFL_iBT_Score_Comparison_Tables.pdf)

- (b) TOEIC からの換算は、以下の式を使用してTOEFL (PBT) に換算した後、(d)の方法を適用します。

$$\text{TOEIC スコア} \times 0.348 + 296 = \text{TOEFL (PBT) スコア}$$

- (c) IELTS からの換算は、一般的に用いられている換算表に基づいてTOEFL (PBT) に換算（幅で示されている換算点数の中間値を用いる）した後、(d)の方法を適用します。

参考：<https://au-ryugaku.com/comparison-table/>

- (d) TOEFL (PBT) からの換算は、657点以上を満点に相当する100点、350点以下を0点とします。

TOEFL (PBT) スコアが657～350点の場合、以下の式を用います。

$$\frac{\text{TOEFL (PBT) スコア} - 350}{(657 - 350)} \times 100 = \text{換算点}$$

- (e) 以上の換算方法は、今回の試験のみ適用されるものとします。

# 統合環境学特別コースの案内

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/course/overview.html>

グローバル COE プログラム「地球学から基礎・臨床環境学への展開」（2009 年度～2013 年度）を契機に、統合環境学特別コースが 2010 年度から環境学研究科の博士後期課程に設置された。この特別コースは生命農学研究科生物圏資源学専攻にも設置され、共同で授業や研究指導を行っている。以下で、環境学研究科に入学・進学を予定されている方を対象に統合環境学特別コースについて説明する。

1. 本特別コースは、環境学研究科の博士後期課程の各専攻（履修コース）に入学または進学する者が、各自の専攻・履修コースのカリキュラムに加えて、本人の希望により選択するものである。
2. 希望者は入学志願票の所定欄に ✓ を記入すること。
3. 主旨は専門分野の勉強・研究だけでなく、診断的分野と治療的分野をつなぐ臨床環境学・基礎環境学に積極的に参画して視野を広げようとする学生を育てることにある。
4. 修了要件：後期課程の授業科目から、臨床環境学研修 1（2 単位）と基礎環境学講究 1（2 単位）を含む 10 単位以上を履修すること。学位論文に関する研究指導は必修とする。修了に必要な単位数が、通常の専攻・履修コースより多いことに注意すること。
5. 学位は、各自の所属する専攻・履修コースでの取り扱いに従って審査・授与される。
6. 本特別コースの修了者には学位とは別に修了証を発行する。
7. 統合環境学特別コースに関連した後期課程授業は次の通りである。いずれも、研究科共通科目である。
  - (ア) 臨床環境学研修 1, 2（各 2 単位）国内のフィールドにおいて、診断と治療の双方の教員・学生から成るチームが、問題特定から解決策の策定までの実践的な研修を進める。
  - (イ) 基礎環境学講究 1, 2（各 2 単位）臨床環境学を支える体系としての基礎環境学を構築するため、環境の描像、診断と治療の方法、及び研究・実践の理念・態度に関して教員・学生双方で発表し、共有する。

# 知の共創プログラム特別コースの案内

[https://www.env.nagoya-u.ac.jp/co\\_creation/goal.html](https://www.env.nagoya-u.ac.jp/co_creation/goal.html)

環境学研究科では SDGs に代表される喫緊の環境問題の解決に向けて、行政や企業、NPO などの社会のさまざまな現場で問題に直接向き合う方々と共に、超学際的な（大学の研究者と社会のさまざまなステークホルダーが、研究計画の立案から成果の社会還元まで、研究のあらゆる段階で直接連携する）共同の取り組みを推進するために、2022 年度から、社会人博士後期課程の入学者を対象にして、知の共創プログラム特別コースを開始した。以下、知の共創プログラム特別コースについて説明する。入学試験の詳しい内容については、募集要項の「7.4 知の共創プログラム特別コース」を参照すること。なお、本特別コースの 10 月入学を希望する者は、秋入学募集に出願すること。

1. 本特別コースは、環境学研究科の博士後期課程を社会人特別選抜の枠組みで受験する者の中から自ら希望する者を対象としており、本特別コースへの入学・進学を希望する者は、出願時に本コースを「専願」もしくは「併願」で選択しなければならない。本特別コースへの入学・進学を希望する者は、入学・進学志願票の所定欄に ✓ を記入すること。
2. 本特別コースの入学・進学者の定員は、毎年、若干名である。
3. 本特別コースへの入学・進学を希望する者は、出願時に提出する「研究計画書」（別ファイル様式）の中で、主指導教員及び主指導教員とは異なる専門性を有する教員からなる集団指導チームの構築状況を記入する必要がある。そのため、12月16日（金）までに主指導教員と研究計画書の内容の相談を開始し、出願までに主指導教員から研究計画書の内容の承諾を得ておかなければならない。集団指導の目的は、多分野の複数の教員と協力することで、学際的（多分野融合型）アプローチによる問題解決型の研究を可能にするためである。
4. 本特別コースの入学・進学者に対しては、授業料相当額の研究費が、主指導教員の研究室に、本特別コースの大学院生自身による使用を目的として、配分される（本人が希望しない場合は、辞退することも可能である。研究計画書の様式の所定欄に ✓ を記入すること）。但し、配分予定額を上回る入学・進学希望者がいる場合、研究費の減額や、研究費配分なしの合格（この場合は特別コースへの参加辞退が可能）とすることがある。また、入学料相当額の研究費は、特に配分されない。
5. 本特別コースの入学試験は、①研究計画書の書類審査と口述試験により研究内容の超学際性（社会と大学との連携の内容）を審査する試験と、②本人の学力を審査する各専攻での試験（日程と実施方法は、募集要項及び受験案内を参照のこと）の2段階からなる。①の口述試験はオンラインで実施され、その日程は出願後に受験生と相談の上、2023年1月21日（土）、22日（日）のいずれかで原則設定される。
6. ①の口述試験は、15分間の研究計画のプレゼンテーションと15分間の質疑からなる。
7. 本特別コースを「専願」で出願した者で、①で不合格となったものは、②に進むことはできないが、本特別コースを「併願」で出願した者は、①で不合格になっても、通常の社会人特別選抜の枠組みで、②の各専攻の試験を受験することができる。
8. 本特別コースの入学・進学者は、研究科共通科目「知の共創プログラム特別セミナー」の履修を必修とする。同セミナーの詳しい内容については、研究科ホームページならびにシラバスを参照すること。
9. 学位は、各自の所属する専攻（主指導教員の所属する専攻）での取り扱いに従って審査・授与される。本特別コースの院生は、博士（環境学）もしくは博士（個別分野）の学位を取得することができる。